

「葬祭」と「介護」が部門交流し 相乗効果でさらなるサービス向上推進

社会福祉法人東京福祉会 [東京都文京区]

高齢期のトータルケアサービス 提供のため特養事業に参入

葬祭事業や助葬事業、納骨堂や特別養護老人ホームの運営を行なう社会福祉法人東京福祉会（本部東京都文京区、理事長原山陽一氏）は、生活困窮者の葬儀を援助する「財団法人助葬会」として、1919（大正8）年に創設された。

設立から間もない21年、宮内省（現宮内庁）から東京府北豊島郡上板橋村（現練馬区小竹町）の御料地を下賜され、26年に「聖恩山霊園」を開設して納骨堂の運営を開始。99年に開設した「第二聖恩山霊園」（埼玉県毛呂山町）と合わせ、約4万4,000柱（2015年3月末時点）が納骨されている。

また、52年に社会福祉法人に改組するとともに、91年には東京福祉会に改称した。

75年に最初の直営葬祭会館「道灌山会館」（東京都文京区）、77年には聖恩山霊園の隣接地に2号店「江古田斎場」（東京都練馬区）をオープン。その後、2002年に「江古田斎場」、05年に「道灌山会館」をそれぞれ全面改築した。さらに、07年に3店舗目となる「ホール多摩国立」（東京都国立市）をオープンした。

現在江古田斎場では、葬儀を終えたご遺族のグリーンケアを目的とした「わの会」を開催している。

特別養護老人ホーム（特養）の開設は、介護保険制度が施行された2000年。江古田斎場がある練馬区に「練馬高松園」を開設した。「トータルケアサービスで高齢期の生活を支える」ことを目的としたもので、利用者定員55人（ショートステイ13人、デイサービスが30人でスタート）。練馬区から在宅介護支援センターの運営を委託され、同時に事業を開始している。

その後、新館（定員42人）が03年に完成し、本館、新館を合わせ、定員は97人に増大。さらに06年、隣接地にユニット（全室個室）型の「第2練馬高松園」（定員62人）を開設し、今日に至っている。

入居者は女性が7割で、平均年齢は約84歳。稼働率は約98%を維持している。練馬高松園施設長の仁和良介氏は、「現在、練馬高松園だけでも約900人の待機者がいる。稼働率はしっかりと上げていかなければいけないと思っています」とする。

収入構造（13年度実績）をみると、葬祭事業（霊園事業含む）が28億0,494万円（施行件数4,585件）で、うち、助葬事業が5億9,894万



練馬高松園
施設長
仁和良介氏



渉外部
課長
中山英治氏

■社会福祉法人東京福祉会の概要

所在地/東京都文京区千駄木3-52-1
創立/1919（大正8年）11月
代表者/原山陽一
従業員数/283人
施行件数/4,585件（年間）
介護施設/練馬高松園（東京都練馬区）
第2練馬高松園（東京都練馬区）

円（施行数2,964件）、公益（一般葬祭）事業が約20億8,483万円（同1,621件）、霊園事業が1億2,161万円。これに対し、特養事業は10億3,214万円となっている。一方、職員数は、特養事業約160人に対し、葬祭事業が約120人と特養事業のほうが多くなっている。

葬祭職員も介護職員初任者研修 終了者。研修を受講し理解深める

同会では、特養の入居者や家族に対して、葬祭事業の紹介は積極的にはしていない。

「施設内にパンフレットは置いていますが、『縁起が悪い』と感じる方もいらっしゃるでしょうから、ご相談いただいた方にだけご紹介

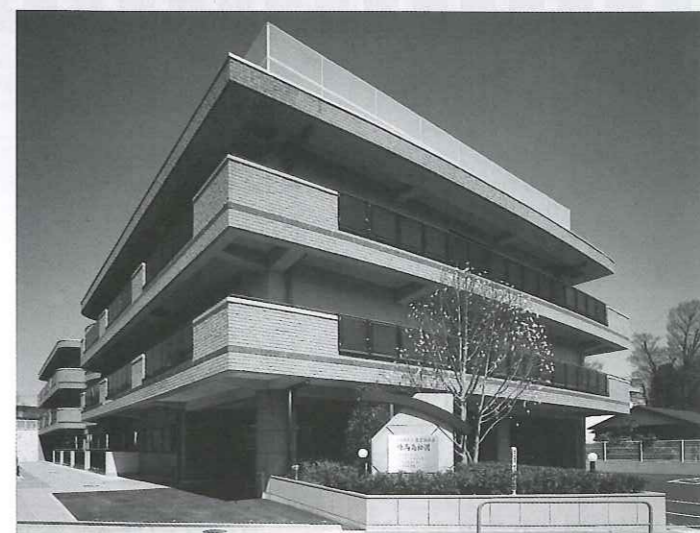
しています」と仁和氏。それでも、加入金のみで三親等まで利用可能な会友制度には、入居者の家族の入会が少しずつ増加している。入会金はプールし、社会福祉事業に活用している。

同会渉外部課長の中山英治氏は、「葬祭事業でも特養事業でも、お客様によりサービスを提供することが重要。それが相乗効果になると考えています」という。事実、いずれの事業もクチコミなどの評判がよいようだ。

葬祭事業と特養事業の交流に、積極的に取り組んでいるのも同会の特徴だ。

たとえば、施設で亡くなった入居者のお別れ会は、故人や遺族の希望に応じて行なっているが、その際、葬祭部門の職員が出向いて特養部門の職員と一緒にとり行なっている。また、13年からは特養部門の職員が講師となって、介護職員初任者研修（東京都認可事業）を年1回実施しているが、一般の受講者に交じって、葬儀部門の若手管理職の職員も毎年3人ずつ参加し、資格取得に励んでいる。「双方の事業に対するお互いの理解が進んできました。今後は研修を年2回にふやしていく予定です」と仁和氏も効果を実感している。

中山氏も研修に参加して資格を取得したが、「はじめて知る内容で非常に興味深く受講しました。葬儀の現場でも、高齢者の方の介助や車椅子の取扱いなど、とても役に立っています」という。今後は一般職員についても人事交流を図りたいと考えている。



2000年4月に開設された「練馬高松園」



練馬高松園の隣接地に06年オープンした「第2練馬高松園」

創立100周年に向けた 地域貢献事業の取組み

同会では昨年、創立95周年にあたり、100周年に向けた「経営戦略5か年計画」を策定した。その基本方針は「成長軌道に反転し、地域に貢献する」。仁和氏も「これからの特養は、もっと地域に開かれた福祉拠点であるべきだと思います」と語り、地域貢献の具体的な取組みを開始している。

1つは今年10月の開始を目指している、在宅認知症高齢者の支援。認知症高齢者や家族に特養の地域交流室に集まってもらい、一緒にお茶を飲みながら悩みを語り合っ

たり、講師を招いて認知症の勉強をしたり、専門の職員が相談に乗るといった場を提供する計画だ。

銭湯がなくなり風呂に入れなくなった高齢者に、デイサービスが浴場を開放することも検討している。貢献の対象は高齢者だけでなく、低所得者、生活保護世帯の子どもたちに対する学習支援も考えているなど、さまざまな形で地域貢献事業を計画している。

「私どもは、葬儀の仕事も、特養の仕事も、どちらも究極のサービス業ではないかと思っています」と仁和氏。双方の情報が交流することでノウハウを共有し、より厚みのあるサービスを提供していく考えだ。